公益社団法人　日本技術士会北陸本部　青年技術士交流委員会

設立20周年記念誌

公益社団法人　日本技術士会北陸本部　青年技術士交流委員会

設立 20 周年記念誌

＜ 目　次 ＞

発刊にあたって　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

日本技術士会北陸本部・青年技術士交流委員会　委員名簿　・・・・・・・・・・・　2

日本技術士会北陸本部・青年技術士交流委員会　22 年の歴史　・・・・・・・・・・　3

おもひでのアルバム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

歴代委員長の声　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22

北陸青年の未来に向けて　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　40

編集後記　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　43

発刊にあたって

青年技術士交流委員会
委員長　高野康夫

青年技術士交流委員会は、平成 10 年(1998 年)12 月に北陸地区の「青年技術士懇談会」の名称で設立され、おかげさまで昨年 20 周年を迎えることができました。

設立翌年の平成 11 年(1999 年)7月には第1回青年技術士懇談会を開催し、以降毎年精力的に活動しています。

設立当時からの記録を読み解くと、試行錯誤を繰り返しながらも徐々に、地域貢献へとテーマを確立していく様子がわかります。現在では、委員会の活動方針として具体的に「地域の活力・底力」をテーマに掲げています。諸先輩方が取り組んできたこのテーマを大切に、これからも委員の皆で力を合わせて邁進したいと考えています。

さてここに、青年技術士交流委員会設立 20 周年を記念し、20 年間の記録を 20 周年記念誌として一所に取りまとめさせていただきました。至らぬ点もあろうかと思いますが、“若気の至り”と御容赦いただき、温かく見守っていただければと思います。

歴代の先輩方と、全国から参集してくれた仲間たちに感謝の気持ちを込めて

令和3年7月 14 日

日本技術士会北陸本部・青年技術士交流委員会　委員名簿

平成10年 1998年12月～	平成16年 2004年6月～	平成19年 2007年6月～	平成20年 2008年6月～	平成21年 2009年6月～	平成23年 2011年6月～	平成25年 2013年8月～	平成26年 2014年8月～	平成27年 2015年8月～	平成28年 2016年8月～	平成29年 2017年8月～	令和元年 2019年7月～	令和3年 2021年7月～
◎ 土橋佳代												
○ 山賀正道	◎ 堀田　亨	◎ 堀田　亨										
河原史直	○ 大塚直吉	○ 大塚直吉	○ 大塚直吉	◎ 大塚直吉								
池田孝司	○ 小見直樹	○ 小見直樹	○ 小見直樹	○ 小見直樹	○ 小見直樹	小見直樹	小見直樹					
上村浩茂	青木　厚	青木　厚	青木　厚	青木　厚	青木　厚	青木　厚	青木　厚					
上石勲	川端恭一	川端恭一	川端恭一	川端恭一								
藤田利昭	小海明広	小海明広	小海明広	小海明広								
藤塚治義	佐藤洋子	佐藤洋子	佐藤洋子	佐藤洋子	佐藤洋子							
船引一樹	安江雪菜	安江雪菜	安江雪菜	安江雪菜								
		○ 齋藤真晴	◎ 齋藤真晴									
		池田保裕	池田保裕									
		竹内勝信	竹内勝信	竹内勝信								
			五十嵐直樹	五十嵐直樹								
			岡野康弘	○ 岡野康弘	○ 岡野康弘	○ 岡野康弘	○ 岡野康弘	○ 岡野康弘	○ 岡野康弘			
			森　将恒	森　将恒	森　将恒			森　将恒	森　将恒	○ 森　将恒		
				大高　章	大高　章	○ 大高　章	○ 大高　章	◎ 大高　章	◎ 大高　章	大高　章		
				森　照代	○ 森　照代	○ 森　照代	○ 夛田照代	○ 夛田照代	○ 夛田照代	○ 夛田照代	○ 夛田照代	○ 夛田照代
					◎ 坂東和郎	◎ 坂東和郎	◎ 坂東和郎					
					五十嵐敦							
					片岸将広	片岸将広	片岸将広					
					小林秀一	小林秀一	小林秀一					
					大門健一	大門健一	大門健一	大門健一	大門健一	大門健一		
					長谷川正幸	長谷川正幸	長谷川正幸					
					三善啓昭	三善　啓昭	三善　啓昭	三善啓昭	三善啓昭			三善啓昭
						岩田清幸	岩田清幸					
						江川千洋	江川千洋	江川千洋	江川千洋	江川千洋		
						小酒欽弥	小酒欽弥	○ 小酒欽弥	○ 小酒欽弥	◎ 小酒欽弥		
						下鳥　稔	下鳥　稔	下鳥　稔	下鳥　稔	下鳥　稔	下鳥　稔	下鳥　稔
						中村大輔	中村大輔	中村大輔	中村大輔	中村大輔	中村大輔	中村大輔
						宮下昌之	宮下昌之					
						安野伸春	安野伸春	安野伸春	安野伸春	安野伸春	安野伸春	安野伸春
								河原洋行	河原洋行	河原洋行	河原洋行	
								高野康夫	高野康夫	高野康夫	◎ 高野康夫	
								中村彰文	中村彰文	○ 中村彰文		
									眞島俊光	眞島俊光		
										村山達也	○ 村山達也	◎ 村山達也
											○ 石田謙介	○ 石田謙介
											関谷　悟	○ 関谷　悟
											神納　毅	神納　毅
											柴田悠平	柴田悠平
											荒井秀和	荒井秀和
											飯澤周佑	飯澤周佑
											坂井貴文	坂井貴文
												伊藤義将
												勝見百合
												根本晋哉
												内田真梨
												山岸由佳

・この委員名簿は、歴代の委員長からの聞き取り、及び確認できる範囲の活動資料を基に作成しています。
・◎は委員長、○は副委員長です。
・時代により「オブザーバー」として登録された方が多数おられますが、この名簿では記載しておりません。
このため、オブザーバーや多々ご協力を頂いた方が隠れてしまっている場合があります。平成10年～15年の青年技術士懇談会の時代でも、この他にも多くのお世話にあった方々がおられたことを土橋委員長から伺っております。調査が行き届かず、名簿が不完全であることを、この場を借りてお詫び申し上げます。

（下鳥）

日本技術士会北陸本部 青年技術士交流委員会 22年の歴史　※活動のほんの一部を抜粋しています。

年月日	委員長	活動実績	活動場所	テーマ
平成10年12月	土橋佳代	北陸地区の青年技術士懇談会　設立	―	
平成11年7月31日(土)		第1回青年技術士懇談会（新潟地区）	新潟県	APECエンジニアの相互承認と技術士制度の改善点について
平成11年11月17日(水)		第2回青年技術士懇談会（新潟地区）	新潟県	信濃川ウォーターシャトル計画
平成12年7月1日(土)		第3回北陸支部青年技術士懇談会	新潟県	パネラーによる話題提供と参加者を交えたパネルディスカッション
平成12年11月11日(土)		第4回青年技術士懇談会（新潟地区）	新潟県	21世紀を目前にひかえ、技術者に求められる視点は何か
平成13年7月14日(土)		第5回青年技術士懇談会（新潟地区）	新潟県	参加型のパネルディスカッション 「人間が今後生きていくための技術のあり方」循環型社会をめざした技術のあり方
平成13年11月10日(土)		第6回青年技術士懇談会（新潟地区）	新潟県	実務経験を通じたケーススタディ
平成14年6月1日（土）		青年技術士懇談会	新潟県	今年度の青技懇の企画について
平成14年7月27日（土）		青年技術士懇談会・現地見学会	新潟県	新津市内の堆肥工場とそれを利用した圃場見学及び新津地域学園研修室での懇談会
平成15年1月18日(土)		青年技術士懇談会合（講演会）	新潟県	素材へのこだわり、味づくりへの信念、お客様への想い
平成15年9月20日(土)		青年技術士懇談会イベント～前編～　テーマ：「くらし」	新潟県	朱鷺メッセ～新潟下町見学会
平成15年12月13日(土)		青年技術士懇談会イベント～後編～　テーマ：「くらし」	新潟県	参加型パネルディスカッション「新潟市の新旧を活かしたまちづくり」
平成16年5月8日(土)	堀田　亨	新組織と今年度の活動計画について	新潟県	教育広報委員会と事業委員会の下部組織として、”青年技術士委員会”に改称
平成16年9月25日(土)		青年技術士委員会イベント	新潟県	村上の町屋めぐり～屏風まつり見学～ ※前年度のテーマ「くらし」をより深く探求していくこと
平成17年2月19日(土)		青年技術士委員会イベント	新潟県	くらしと防災～安全なくらしのために～
平成17年9月10日(土)		見学会（青年技術士委員会企画）	新潟県	見学先：旧高柳町荻ノ島地区環状かやぶき集落、東京電力㈱柏崎刈羽原子力発電所
平成18年1月28日(土)		青年技術士委員会（北陸支部）イベント	新潟県	「青年が語る20年後の未来像～くらしを豊かにする技術の伝承」
平成18年6月17日(土) 6月18日(日)		青年技術士委員会　委員交流会及び見学会	石川県	1日目「金沢市内見学」、2日目「七尾市内見学」
平成18年7月22日(土)		青年技術士委員会企画　見学会	新潟県	「暮らしと再生技術の現地見学会」 見学地：①新発田城、②片山食品工場、③ニホンアクシィーズ東港工場
平成18年12月16日(土)		北陸支部　青年技術士委員会企画　講演会	新潟県	青年が語る近未来への夢～時間・空間へ挑戦する技術～
平成19年6月23日(土) 6月24日(日)		青年技術士委員会交流会　“青年技術士の集い”準備会および見学会	福井県	1日目「三国見学、全国大会の「会場」視察、全国大会「青年技術士の集い」準備会」 2日目「福井見学」
平成19年11月17日(土)		青年技術士委員会企画　見学会	新潟県	新潟の暮らしを支える自然の恵みとエネルギー
平成20年4月26日(土)	齋藤真晴	講演会（青年技術士委員会企画）	新潟県	政令指定都市・新潟市の暮らしと未来～都市の新しい価値を考える～
平成20年6月14日(土) 6月15日(日)		第6回拡大運営委員会in富山（於：岩瀬カナル会館）	富山県	見学地：1日目　岩瀬町並み散策、北前船回船問屋「森家」見学、懇親会」 2日目「薬種商の館『金岡邸』見学、ますの寿司本舗『源（みなもと）』工場見学」
平成20年11月21日(金)		企業見学会（青年技術士委員会企画）	新潟県	見学先：ナミックス(NAMICS)株式会社
平成21年9月12日(土) 9月13日(日)		第4回拡大青年技術士委員会議および交流会	新潟県	見学地：1日目　与板歴史民俗資料館、信濃川大河津資料館 2日目　福島潟

日本技術士会北陸本部 青年技術士交流委員会 22年の歴史　※活動のほんの一部を抜粋しています。

年月日	委員長	活動実績	活動場所	テーマ
平成21年9月26日(土)	大塚直吉	見学会（青年技術士企画）	新潟県	地域の活力・底力　～燕三条地域の地場産業～
平成22年1月30日(土)		講演会（青年技術士委員会企画）	新潟県	地域の活力・底力
平成22年7月10日(土) 7月11日(日)		第5回拡大青年技術士委員会議および交流会	石川県	見学地：1日目　金沢城公園、長町集真藍（あぢさい）工房 2日目　金石・大野地区見学
平成22年8月28日(土) 8月29日(日)		関東支部と北陸支部のサッカー合同練習＆テクノツーリズム	新潟県	1日目　サッカー交流試合、懇親会 2日目　テクノツーリズム
平成22年10月2日(土)		見学会（青年技術士委員会企画）	新潟県	地域の活力・底力　～新潟東港地域における生産と港湾機能～
平成22年12月18日(土)		講演会（青年技術士委員会企画）	新潟県	地域防災を考える
平成23年2月19日(土)	坂東和郎	講演会（青年技術士委員会企画）	新潟県	環境と地域活力
平成23年7月2日(土) 7月3日(日)		第6回拡大青年技術士委員会議および交流会	福井県	見学地：1日目　若狭湾エネルギー研究センター 2日目　小浜市町並み、御食国若狭おばま食文化会館
平成23年10月1日(土)		青年技術士委員会見学会	新潟県	地域の活力・底力　～再生可能エネルギーの将来展望～
平成24年1月21日(土)		講演会（青年技術士委員会企画）	新潟県	震災と復興
平成24年6月30日(土) 7月1日(日)		第7回拡大青年技術士委員会会議および交流会	富山県	見学地：1日目　国宝瑞龍寺 2日目　高岡市内歴史的町並み
平成24年10月6日(土)		見学会（青年技術士委員会企画）	新潟県	地域の活力・底力　～金物のまち三条から世界へ～ （三条地域の企業の強さについて学ぶため）
平成25年1月19日(土)		青年技術士委員会講演会	新潟県	環境とエネルギー
平成25年3月16日(土)		青年技術士交流実行委員会 スポーツ交流及びテクノツーリズムin新潟	新潟県	新潟の食文化の一つである日本酒を通して、新潟の文化を身近に感じてもらうこと
平成25年6月29日(土) 6月30日(日)		第8回拡大青年技術士委員会議および交流会in上越	新潟県	1日目　技術発表会等 2日目　坂口記念館見学、岩の原ぶどう園見学
平成25年11月1日(金)		青年技術士委員会 平成25年度秋の見学会	新潟県	地域の活力・底力　～地域を支える交通機関～
平成26年2月15日(土)		青年技術士委員会企画シンポジウム	新潟県	シンポジウム　～働きやすい職場環境とは～
平成26年3月15日(土) 3月16日(日)		青年技術士委員会企画　スポーツ交流及びテクノツーリズム ～自転車移動のススメ、にいがた酒の陣、フットサル～	新潟県	1日目　建設部門技術士による講演会、新潟ならではの企画“にいがた酒の陣2014 現地見学会” 2日目　新潟市内のフットサル場にてスポーツ交流
平成26年6月21日(土) 6月22日(日)		第9回拡大青年技術士委員会議および交流会	石川県	1日目　会議、技術発表会等 2日目　金沢駅西広場視察、金沢レンタサイクルまちのり視察、サイエンスヒルズこまつ見学
平成26年10月31日(金)		青年技術士委員会 平成26年度秋の見学会	新潟県	地域のエネルギー　天然ガス～持続可能な開発～ 見学先：①山の下閘門排水機場、②環境省山の下地盤沈下観測井群、③株式会社東邦アーステック　黒埼事業所

日本技術士会北陸本部 青年技術士交流委員会 22年の歴史　※活動のほんの一部を抜粋しています。

年月日	委員長	活動実績	活動場所	テーマ
平成27年1月31日(土)	大高　章	青年技術士委員会 平成26年度冬の講演会	新潟県	地域ブランド
平成27年5月16日(土) 5月17日(日)		第10回拡大青年技術士委員会議および交流会	富山県	1日目　青年の集い会場・テクノツーリズム候補地視察・意見交換会等 2日目　拡大青年技術士委員会議等
平成27年10月2日(金) 10月3日(土)		第42回技術士全国大会（北陸・富山）青年技術士の集い	富山県	いきたい、すみたい、はたらきたい　“ 富山 ”
平成28年2月13日(土)		青年技術士委員会 平成27年度冬の講演会	新潟県	新たな交通機構が目指す地域・人・交通の未来
平成28年5月20日(金) 5月21日(土)		中部青年技術士会30周年記念例会	愛知県	1日目　テクノツーリズム 2日目　中部青年技術士会30周年記念例会
平成28年6月11日(土)		東北本部 青年技術士交流実行委員会 ミニ全国大会 テクノツーリズム	宮城県	①SNS復興セミナー、②青年の集い、③女川まちづくり現場見学、④復興現場見学
平成28年6月18日(土) 6月19日(日)		第11回拡大青年技術士委員会議および交流会	福井県	1日目　福井駅西口中央地区市街地再開発事業見学会、会議、技術発表会 2日目　敦賀市まちづくり見学会
平成28年10月21日(金)		青年技術士委員会 平成28年度秋の見学会	新潟県	見学先：菊水酒造株式会社
平成28年11月12日(土) 11月13日(日)		第43回技術士全国大会（横浜）青年技術士交流委員会イベント	神奈川県	1日目　テクノツーリズム①横浜港の歴史講義＆博物館見学、②川井浄水場見学、大懇親会 2日目　拡大委員会、青年技術士の集い
平成29年2月11日(土)		青年技術士委員会 平成28年度冬の講演会	新潟県	新しいお米ブランド － 新之助 －
平成29年6月17日(土) 6月18日(日)		統括本部青年技術士交流委員会 拡大運営委員会	東京都	1日目　統括・地域本部交流会議、大懇親会 2日目　テクノツーリズム
平成29年6月24日(土) 6月25日(日)		第12回拡大青年技術士委員会議および交流会	新潟県	1日目　会議、技術発表会 2日目　下水熱および地中熱利用施設見学、「旗」の披露、Facebookリニューアル
平成29年9月29日(金)	小酒欽弥	青年技術士交流委員会 平成29年度秋の見学会	新潟県	“地域の活力・底力”　「情報システムと危機管理対策」
平成29年10月20日(金) 10月21日(土)		第44回技術士全国大会in山口 青年技術士交流委員会	山口県	維新百五十年～新しい時代を作る技術士の役割～
平成30年2月10日(土)		青年技術士交流委員会 平成29年度冬の講演会	新潟県	活力を生む経営企画・イベント・製品への取り組み方
平成30年6月9日(土) 6月10日(日)		統括本部青年技術士交流委員会 拡大運営委員会	東京都	1日目　拡大運営委員会、本支部交流会議、懇親会」 2日目　テクノツーリズム、懇親会
平成30年6月30日(土) 7月1日(日)		第13回拡大青年技術士委員会議および交流会	石川県	1日目　第13回拡大青年技術士委員会議、技術発表会 2日目　クリエイティブツーリズム
平成30年11月2日(金)		青年技術士交流委員会 平成30年度秋の見学会	新潟県	新潟の文化を醸成・発信し、感動を支える舞台裏の技術
平成30年11月10日(土) ～11月12日(月)		第45回技術士全国大会in福島（青年）	福島県	1日目　前夜祭、2日目　研修会、大懇親会、3日目　テクニカルツアー（安積疏水）
平成31年1月25日(金)		青年技術士交流委員会 平成30年度・冬の講演会	新潟県	“地域の活力・底力”　「農業イノベーションと地域の取組」
令和元年6月15日(土) 6月16日(日)		統括本部青年技術士交流委員会 拡大運営委員会	東京都	1日目　拡大運営委員会、本支部交流会議、懇親会 2日目　テクノツーリズム、懇親会
令和元年6月29日(土) 6月30日(日)		第14回拡大青年技術士委員会議および交流会　in福井	福井県	1日目　第14回拡大青年技術士委員会議、技術発表会 2日目　テクノツーリズム、（一乗谷朝倉氏遺跡）

日本技術士会北陸本部 青年技術士交流委員会 22年の歴史　※活動のほんの一部を抜粋しています。

年月日	委員長	活動実績	活動場所	テーマ
令和元年10月4日(金) ～10月6日(日)	高野康夫	第46回技術士全国大会in徳島 青年技術士交流委員会	徳島県	1日目　ひょうたん島クルーズ＆前夜祭、2日目　テクニカルツアー＆大懇親会、 3日目　青年分科会＆本大会
令和元年11月1日(金)		青年技術士交流委員会 令和元年度秋の見学会	新潟県	羽越水害を乗り越えて！新潟の農業を支える農業水利施設 （内の倉ダム、発電所、頭首工、松岡ため池）
令和2年1月31日(金)		青年技術士交流委員会 令和元年度・冬の講演会	新潟県	“糸魚川市駅北大火”からの復興の取り組み
令和2年6月12日(金)		第15回拡大青年技術士委員会議および交流会（Web）	Ｗｅｂ	技術発表会、Web懇親会
令和2年6月27日(土)		統括本部青年技術士交流委員会 拡大運営委員会（Web）	Ｗｅｂ	拡大運営委員会、本支部交流会議、オンライン大懇親会
令和2年10月4日(日)		全国青年2020～中部大会～（全国大会延期代替企画）オンライン交流（Web）	Ｗｅｂ	Shikakeology講演、記念品Project、Web交流会
令和2年10月23日(金) 10月24日(土)		青年技術士交流委員会 令和元年度秋の見学会（Web）	新潟県 （Ｗｅｂ）	1日目　Web見学会「佐渡地域のストックマネジメント」～世界遺産への挑戦と生態・文化財の保全について～ 2日目　インフラツーリズム
令和3年3月5日(金)		青年技術士交流委員会 令和2年度・冬の講演会（Web）	Ｗｅｂ	「北陸の青年技術士」
令和3年7月17日(土)	村山達也	2021年度ウェルカムミーティング 第16回拡大青年技術士委員会議および交流会（Web）	Ｗｅｂ	委員会活動紹介、20周年記念誌の紹介、参加者自己紹介、技術発表、Web懇親会

そして村山達也と共に新たなページが刻まれる・・・。

おもひでのアルバム

歴代の委員の皆様に、これまでの活動を振り返っていただきました。

技術士会における活動や、年表に書かれていた出来事の裏側が覗けるかも？

◇日韓技術士会議のおもひで

第 38 回親善サッカー大会の様子

無駄に走りまくる齋藤（左）

健闘した１－１の証拠写真

（上段）澤さん 平野さん 李さん 金さん 洪さん 朴さん 堀田さん
（下段）私（齋藤）時合さん・・・新潟の居酒屋にて

「第 38 回日韓技術士会議」は平成 20 年 9 月 28 日～10 月 1 日まで新潟市で開催されましたが、国際交流デビュー戦であった当時の「おもひで」を少し思い起こしてみたいと思います。

ご存じの方も多いと思いますが、日韓会議（韓日会議）は歴史が深く、その記念すべき第 1 回大会は昭和 46 年に開催され当時の参加者は 56 名だったようです。その後、北陸では現在、名誉本部長の中山輝也氏をはじめとする日韓技術士会議実行委員会の諸先輩方の弛まぬ努力によって、私がお手伝いした第 38 回は、第 1 回の約 7 倍にあたる 382 名もの参加がありました。

この会議は日本と韓国の技術士を通じた両国の科学技術の発展と友好関係を築くことが目的ですが、それ以上の大きな役割を果たしてきたのではないかと感じています。なぜなら、約半世紀の間、日韓関係に陰りが見えたときでも、その交流を続けたことで真の信頼関係が出来上がっていたからです。

さて、話を元に戻しますがこの大会の準備は 1 年前に遡ります。まず、韓国で開催される第 37 回の韓日会議に参加し､大会の規模感や雰囲気を感じ第38回大会をどう成功させるか参考とするためです。北陸支部の青年委員からは当時委員長であった堀田亨さんと副委員長であった私（齋藤真晴）が次回のホスト国の青年技術士代表として参加することとなりました。

「第 37 回韓日技術士会議」は平成 19 年 9 月 30 日～10 月 2 日まで開催され、両国の青年の活躍が期待される友好親善サッカー大会から始まります。私たち北陸支部参加者一行は新潟～羽田～仁川空港に降り立ち、バスに揺られて、気付けば小高い丘の上にあるサッカー場に到着。その日は手がかじかむほどの寒さでした。試合会場となるフィールドは少しぬかるんでいたため大きなトランクケースを持ち抱えたまま注意深く歩き、控え席のあるテントに向かい到着早々、両国はその場で着替えをしてすぐにサッカーを始めたと思います。その結果は記憶があやしいですが、かなりの大差で負けたように思います。都合の悪いことは忘れるようにしているので・・・。

第 37 回会議の様子

堀田委員長(左)と齋藤(右)

朴氏(右)と齋藤(左)で無謀な飲み比べ

爆弾酒を黙々と準備する朴氏

試合終了後、両国の青年らは談笑しながらシャワールームに入り、汗を流し始めたところで「ひぇーっ」といった悲鳴が響き渡りました。何が起こったかと思いましたが「お湯側にひねっても冷たい水しか出ない」ことが原因でした。韓国チームはその冷たいシャワーを平然と浴び、笑いながらロッカールームを出て行きました。この時は流石に「サッカーで負けるのは仕方ない」などと口々に負けた言い訳にしていました。

友好親善サッカー大会は水シャワーのおかげでサッパリした気持ちで終わり、お待ちかねの大交流会が高級焼肉店で開かれました。国境を越えた仲間たちと飲む生ビールと本場韓国の味は、今思い起こしても「本当に美味くて最高」でした。焼肉はあっという間に皿から姿を消し、韓国の青年が残っていた青唐辛子をボリボリと半分食べたのを見て、我々もいけると思いマネをして一口・・・「辛～い」と悶絶。この時「韓国が強いのはサッカーだけではない」ことを実感しました。

交流会終了後、両国は明日の本会議に備えお礼と別れの挨拶をして、少し酔いながら歩き出しました。するといきなり私の腕は強くつかまれ、振り返るとそこには韓国青年代表の朴永煥氏（パクさん）の笑顔がありました。「もっと飲みましょう！」と言われるまま高級スナックに。そこで、いわゆる韓国名物「爆弾酒（ビール・ウイスキーの一気飲み)」の洗礼を受けました。当然のごとく記憶を無くした者がいた程で本当にヘロヘロになるまで交流を深めました。その写真はギリギリアウトでお見せできません。

最後に「ぜひ武勇伝を書いてほしい」と北陸本部の高野康夫氏から依頼を受けたものの、記憶に残っているのは「ここで披露できないような失敗エピソード」ばかりであることに気づきました。それでも、その当時は本部と支部の多くの先輩の方々や若手の仲間たちに助けてもらいながらですが「精一杯やった」「やりきった」と思える瞬間を感じることができたのは技術士会のおかげだと思っています。青年のみなさんには、技術士会の様々な交流を通して「成功と失敗とちょっとお笑いのある人生を」送っていただきたいと思っています。青年の皆様方のさらなるご活躍を期待しております。（新潟・齋藤真晴）

◇第 3 回拡大青年技術士会 in 富山（2008 年 6 月 14 日、15 日）

2008 年の北陸青年技術士交流会 in 富山は、JR 富山駅から日本初のＬＲＴ・次世代型路面電車（ライトレール）に乗って、終点の岩瀬浜周辺の町並み見学や富山港展望台見学をしながら会場である岩瀬カナル会館へ向かいました。拡大委員会議では、各県の取り組み状況や今後の活動のあり方等について討議し、懇親会では、富山の自然の恵みに感謝しつつ、諸々に語り親交を深めました。

富山と言えば、“売薬”と“ます寿司”。翌日の見学会では、薬種商の館「金岡邸」で売薬富山の成り立ちについて学び、ますのすし本舗「源（みなもと）」では、ます寿司ができる様子を工場見学させていただきました。

富山市内観光のてっぱんルートでしたが、参加者の皆さんに富山の魅力を満喫していただけたのではないかと思います。

（富山・大門）

◇拡大青年技術士会 in 金沢（2010 年 7 月 10 日、11 日）

金沢では 2 回目に開催した拡大青年交流会だったと記憶しています。金沢での第 1 回目は、新潟の諸先輩方にほぼ段取りして頂きましたので、この時は地元メンバーでの企画運営です。初日は金沢城公園河北門や長町武家屋敷の散策の後、しいのき迎賓館で交流会議。翌日は市の海側エリアにある大野地区のまちづくり視察でした。

交流会議の内容はほとんど忘れましたが、青年技術士会としてなにをしたいかを話し合ったらしいことが集合写真のホワイトボードから読み取れます笑。コミュニケーション、ネットワーク拡大、ゲリラ的な活動等。この頃は、北陸の技術士それぞれの得意分野や人となりを知る交流がメインで楽しかった時期です。

そういえば、これから繁華街片町に移動するぞ！という時になって、まだ酔っ払う前の屋敷さんに、北陸の女性技術士の会を立ち上げて欲しいと真顔でお願いされたのでした。この年の 10 月 3 日、お声掛けした北陸 3 県の女性技術士 8 名が金沢でのランチミーティングに集合し、それから北陸の女性技術士の交流もスタートしたという、ある意味で節目となった拡大青年交流会でした。

（石川・安江）

◇第 42 回技術士全国大会（北陸・富山）青年技術士の集い（2015 年 10 月 3 日）

2015 年、第 42 回技術士全国大会（北陸・富山）の最終日、青年技術士の集い。午前中は全国青年技術士交流会議と青年技術士の集い、午後はテクノツーリズムと大懇親会を行いました。

全国青年技術士交流会議では「ミニ全国大会招致合戦」と題して、各地域からの招致プレゼンが行われました。青年技術士の集いでは「いきたい、すみたい、はたらきたい“富山”」をテーマとして、参加者を 9 グループに分け、富山の新たなキャッチフレーズを検討し、参加者投票により順位づけ。午後からのテクノツーリズムでは路面電車が延伸し、乗換え利便性の高まった富山駅の視察、重要文化財の中島閘門、岩瀬の町並み散策を行いました。そして最後は大懇親会。宿泊の参加者は 2 次会で夜遅くまで親睦を深めました。

朝から真夜中まで 1 日をかけての長くて、濃い全国の青年技術士約 80 名の交流の場でした！

ちなみに、集合写真で多くの人が着ている T シャツの「士」の字は富山ゆかりの著名人、藤子不二雄 A 氏揮毫です。

（富山・大門）

◇富山全国大会・青年記念Ｔシャツの作成（2015 年 10 月 3 日）

全国規模の青年のイベントでは記念品が作られることが多く、富山全国大会でも自然にその流れに。ネタには困りませんでした。中国本部が「技」Ｔシャツを作成した後、九州本部が「術」を作成。当然北陸は「士」を作るしかないだろう、ということになりました。問題は誰に書いてもらうか。九州本部の「術」は武田鉄矢さんに揮毫していただいたということで、これはプレッシャーでした。

全国大会が開催される富山の著名人を委員のみなさんの趣味でリストアップ。そこから数人に絞って優先順位をつけて交渉をすることになりました。交渉は第一候補の方の所属先に知り合いがいる下鳥が担当することに。

第一候補の方は、講演や署名等の依頼を全てお断りしているということであえなく撃沈。ただ、所属先を通してお断りする理由の丁寧な説明と謝罪のお手紙を頂き、人柄が出ているな、と感激したことを覚えています。

次の候補は藤子不二雄Ａ先生。全く当てもなかったので、公開されている情報をもとに事務所に連絡。マネージャーさんが取り次いでくれましたが、返事が１か月無く半ば諦めながら再度事務所に連絡したところ、具体的な話を聞いてくれることに。揮毫に必要な道具一式を送ったところ、数日後に返送されてきた色紙には「士」の文字と先生のサイン。さらに落款が。当初Ｔシャツは白黒２色で作成する予定でしたが、この落款を入れなければ意味がないと価格交渉を頑張りました。

背中には大高委員長渾身のデザインの「10.3 TYM」と「nHo」が。”New Hokuriku Order”がわかる方。同士です。

このＴシャツが完成したことで、全国イベントでは一時期「技」「術」「士」そろい踏みで撮影された写真を見る機会が多く見られました。これは密かな喜びです。ただ、誰か「補」作ってくれないかな～。

先生が揮毫してくれた色紙は２枚。一枚は北陸本部に、もう一枚は富山に眠っている、はず。

（新潟・下鳥）

◇冬の講演会（2017 年 2 月 11 日）

新しいお米ブランド「新之助」の開発秘話や生産農家のお話をお聞きするだけでなく、新之助の試食もしてみよう！という大高委員長の提案に完全のハマってしまいました。。。

生産農家の方からおいしいお米の炊き方を事前に教えていただき、レンタルした炊飯器で新之助とコシヒカリを炊いての試食会。炊き上がりが不安でしたが、皆様おいしく召し上がっていただいて、ホッとしたのを覚えています。私も試食しましたが、大高委員長が苦労して手に入れた新之助がとても美味しく感じられました。

それにしても、このご時世なら完全アウトのイベントですね。

（新潟・下鳥）

◇拡大青年技術士会 in 金沢（2018 年 7 月 1 日）

2018 年拡大青年技術士会 in 金沢の２日目。北陸新幹線開業効果により観光客が最も多く増加したひがし茶屋街周辺で、観光ガイドブックに載っていない、ちょっとディープな金沢を巡るクリエイティブ・ツーリズムを行いました。

江戸時代から続く味噌屋さん、苔が美しすぎる園芸屋さん、オシャレな古本屋さん、手作業で名刺やカードを作る活版印刷屋さん、金沢美大卒業生が新たな感性で作る工芸屋さんなどなど。店主の皆さんが仕事の面白みや難しさなどを語られるその様子はまさにプロフェッショナル。

２、３時間で異なる様々な分野の刺激を体験ができる、素敵なツアーでした！

（石川・眞島）

◇秋の見学会（2018 年 11 月 2 日）

「新潟の文化を醸成・発信し、感動を支える舞台裏の技術」と題して、新潟市民芸術文化会館「りゅーとぴあ」、およびテレビ新潟放送網「TeNY」への見学会を企画しました。りゅーとぴあではメインのコンサートホールの見学は惜しくも叶わず。それでも劇場や能楽堂は訪れることができ、すばらしい建築技術に触れることができました。調整の難しさを実感したイベントでした。

当日は、元統括本部青年委員長の諸田様にお越しいただきました。昼からしっかり見学会に参加いただき、夜もしっかり交流を深めて頂きました。大変ありがたいことです。

8 代目委員長高野さんの ZIP!を頂きました。桝太一アナが ZIP!、水卜麻美アナがスッキリを担当していた頃でしたね。

（新潟・飯澤）

◇とやま若手技術士交流会/日本技術士会北陸本部富山県支部（2020 年 1 月 22 日）

2020 年 1 月に「とやま若手技術士交流会」を開催しました。富山県支部では年 2 回の定例講演会を実施していますが、若い技術士（特に企業内若手技術士）の参加が極めて少ない状況です。定例の講演会の参加者が固定化していることもあり、新規の若手技術士が参加しづらい状況を考慮し、企業内技術士を中心とした若手技術者の研鑽・交流の場として、記念すべき第 1 回目の交流会を開催しました。

交流会では、山中氏から他分野の技術士の協力を得ながら成功に結びつけられた事例を紹介や、村山副委員長（新青年委員長）より北陸本部青年技術士交流委員会の青年技術士の取り組みについて紹介いただき、若手技術者に対して、技術士交流の魅力を伝えられたのではないかと思います。

出席者 38 名のうち 22 名は、会員以外の若手技術者であり、参加しづらい若手技術者に対し交流の場として、充分に意義のある会となりました。今後も継続的に開催し、若手技術士の交流の活性化につなげていきたいと思います。

（富山・荒井）

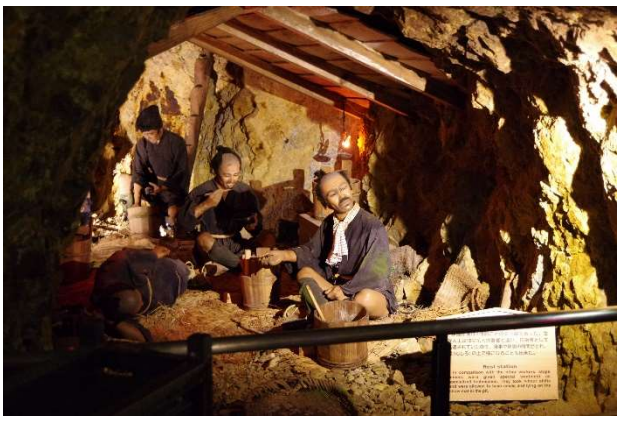
◇冬の講演会（2020 年 1 月 31 日）

2016 年 12 月 22 日の糸魚川大火からの復興と課題についてお聞きする講演。当初講演をお願いしていた加賀の井酒造の蔵元がインフルエンザで急に来られなくなり、大慌てで糸魚川市さんに代役として災害ボランティアの方を紹介していただいて何とか形になりました。

加賀の井酒造さんは、酒蔵見学では引退された先代が案内してくれ、意見交換会では秘蔵の一本をご提供いただくなど、アフターサービスで素晴らしいフォローを頂きました。締めくくりは高野委員長と言えばの鉄火巻き。さらにこの後ラーメンを食べたのはここだけの秘密。

（新潟・下鳥）

◇秋の見学会（2020 年 10 月 23-24 日）



毎年、みんなで集まれるのが楽しみだった秋の見学会ですが、時節柄リアルで会えないし、会議も Web 上でということなので、見学会もこれに倣って先遣隊が現地に乗り込み、リモートで多くの方々にお届けしようという初の試み。

現地では Web 講演会(参加 6 名プラス zoom の向こう側には三十人近い聴講者)を無事に進行させたうえ、チャット上でも活発な質問、意見が飛び交い、とても有意義に過ごすことが出来ました。

その他、見学会では何十年にもわたりなじみの女に逢いたがるオヤジとの遭遇、佐渡奉行に突如憑依される高野委員長(当時)、今回の企画を丸抱えで進めてくださった伊藤さんの金塊強奪作戦(残念ながら未遂に終わる)。翌日、たらい船出撃時だけ好天に恵まれる神の御加護など、盛り沢山の内容でした。

この度の禍が一段落したら、大手を振って皆さまにお会いできますように。そのとき、Go to キャンペーンも復活してくれると有難いのですが。 (新潟・三善)

◇マンパワーアップ小委員会と建設業の未来

「北陸本部で若手マンパワーアップ小委員会っていうのが立ち上がるらしいよ。」最初にこの言葉を聞いたのは、東北本部の青年技術士交流委員会が開催してくれたミニ全国大会のテクノツーリズムで震災から復興を目指している女川町のまちづくり見学をしていたときだった。話のネタ元は、森将恒さん。「小酒さんの名前も入っていたけど、知らない？」「うん、知らない」そこからスタートした。

その後、正式に連絡を頂いたなかで若手マンパワーアップ小委員会の趣旨、委員長である大竹先生、委員として集められた建設業に携わる技術士や建設業界に関わる面々、、、。「これは面白そう」直感も働き、当時は青年委員会も副委員長という立場だったこともあり、断る理由もなかった。

最初の年は、学生とのパネルディスカッション、その次はi-constructionの取組の講演会を行った。本委員会の趣旨は入職者が少なくなってきている建設関連産業の魅力を学生・若手に配信して、活気ある新潟モデルの建設業の在り方を見つけること！委員長の大竹先生はこの2回の講演で高らかに宣言していた。

それならば！と次の講演会では、普段の建設業の講演会で参加が非常に少ないと感じていた学生・若手技術者・女性だけが交流会に参加できる講演会を開催した。狙いは、ずばり「交流」。今の若手や女性社員は、逆三角形の人口ピラミッドのなかで働いており、社内に同じ立場・苦労を共有できる人が少ない。でも業界で集まれば、これだけの若手・女性が働いているんだよ、ということを理解してもらうことが狙いだった。もちろん、学生にもそれを理解してもらうことが目的である。講演会はメディアシップで行った。新潟の街を見下ろしながら、未来を語ってもらうのが狙いだった。講演会と交流会が終了した後、アンケートを行った。色々な意見はあったが、交流会に参加した人の満足感は特に高い結果となった。私自身も、若い建設関連産業の仲間たちとの交流は大いに刺激を受けた。

女性・若手で考える建設関連産業の未来の集い（左は講演中、右は交流中）

翌年は、より女性・若手の活躍の在り方に焦点をあてながら、若手・女性に参加してもらえるような講演会を開催した。基調講演者を行って頂いた丸山結香氏からは、女性だからこその甘えがあると女性同士がうまくいかなくなるなどの厳しい声もあった。今思うと、それぞれの立場・状況をどうリスペクトし合えるかが、誰もが活躍できる環境が形成できるかどうかということなのかなと感じているところである。このときには、女性タレントとして新潟で活躍しているリリマリの山田彩乃氏も参加し、女性が働くうえでの考え方について熱く語って頂いた。

女性・若手で考える建設関連産業の未来の集い

一方で、建設業の若手・女性向け以外に学生向けのイベントも同時に開催した。学生向けには、主に港湾などのインフラツーリズムであったり、官公庁、コンサル、ゼネコンの若手社員と信濃川沿いのミズベリングで座談会を行うなどのイベントを進めた。インフラツーリズム、座談会ともに好評で参加した学生からは、業界の雰囲気が分かって良かったこと、学生が気軽に話せる雰囲気が作れたことなどで新潟県内における建設業界へのイメージが変わったことなどが挙がった。

学生向けの土木てんこもりツアー（左：オフィス訪問、右：ミズベリング座談会）

若手マンパワーアップ小委員会は、青年技術士交流委員会の下部組織という位置づけで行われているものの、実質的には独立組織として活動している。特に2年目以降は、技術士や技術士会の枠にとらわれず、建設業界に貢献したい意欲がある方々が委員となり、活動の幅を拡げている。このあたりは、技術士会そのものの懐が大きくなってきたからこそ、出来ることかなと思うところである。

個人的にも、この若手マンパワーアップ小委員会のおかげで、いつも新しい視点で物事を見れていることや、この委員会でしか生まれない人との繋がりが出来たことも財産になったと感じている。このような貴重な経験だからこそ、いつまでも自分が主催するのではなく、次の世代に引き継いでいける環境を作っていきたいと思う。10年後、青年委員会が活動を振り返る頃には、私はこの委員会には居ないのが理想である。「次の世代の若手」が「マンパワーアップ」してこの活動を振り返っていることを期待して、私の思い出話と建設業の未来への期待のコメントは終わりとしたい。

（新潟・小酒欽弥）

歴代委員長の声

――――青年委員会は平成 10 年に発足して以降、総じて 7 人の技術士が委員長を務めあげてこられました。各時代のニーズに応じて、技術士制度の普及に尽力されたお姿が伺えます。この度は、各歴代委員長からお祝いのお言葉や、当時の思い出話、今後の青年活動へのご期待等、力強いメッセージを頂いています。

◆ 歴代委員長 ――――――――――――――――

1 代目：土橋　佳代　氏　(H10～H15)
2 代目：堀田　亨　　氏　(H16～H19)
3 代目：斎藤　真晴　氏　(H20～H21)
4 代目：大塚　直吉　氏　(H21～H22)
5 代目：坂東　和郎　氏　(H23～H26)
6 代目：大高　章　　氏　(H27～H29)
7 代目：小酒　欽弥　氏　(H29～R 1)
8 代目：高野　康夫　氏　(R 1～R 3)

ご多用の中、記事の執筆にご協力いただいた歴代委員長の皆様に感謝申し上げます。

-1 代目-

土橋　佳代

Kayo Dobashi

就任期間 H10～H15

NO IMAGE

【ご本人コメント】

自粛（遠慮）したくお願いいたします

①　青年委員会ご卒業後の現況、ご活躍をお聞かせください。

某建設コンサルタント会社で計画系業務に携わり、最近は主に人材育成に関わっております。その他、防災に関する CSR 活動を少々。

②　青年技術士交流委員会 20 周年について、率直な思いをお聞かせください。

「継続は力（発展）なり」。設立当初からの青年技術士メンバーの努力・協力をはじめ、関係者の皆様に支えて頂いている証と実感します。

③　青年委員会の思い出をお聞かせください。

同じ「士」業の方々との交流が新鮮・好評でした（建築士、ビオトープ管理士など）。

また、幅広い地域連携を目指して考案した北陸青年間の交流が現在も引き継がれていることに感無量です。

④　他の地域本部との交流について、当時の思い出、印象をお聞かせください。

現在のように SNS が未発達だったため連絡は大変でしたが、電話や対面ならではの信頼関係が深まるお付き合いができたと感じます。特に東京本部で各地域から参集した青年幹部との交流がとても実り多く楽しかった記憶が残っています。

⑤　技術士を取得して良かったことをお聞かせください。

自分を目標に技術士を志した方々が立派な技術士になられたことで、多少なりとも後継者育成に貢献できたことでしょうか。

⑥　技術士資格の普及・活用を念頭に、技術士の果たすべき役割、また今後の青年技術士交流委員会に期待することを教えてください。

設立当初からの目標でもありましたが、青年技術士ならではの斬新かつ具体的な社会貢献につながること（行政提案、市民活動支援など）を、技術士の認知度アップとともに考案・実現して頂ければと思います。

-2 代目-

堀田　亨

Toru Hotta

就任期間 H16～H19

【ご本人コメント】

2006 年 6 月 17 日　金沢にて

①　青年委員会ご卒業後の現況、ご活躍をお聞かせください。

建設コンサルタントに長年在籍し主に斜面災害対応に携わってきたのですが、その後、縁あって、埋設ガスパイプラインの地質学的観点からの保全対応に従事しました（出向期間も含めて約 9 年間）。異なる業界で、自分の専門技術を生かすことが出来たという意味で貴重な経験だったと思っています。現在は、新潟市内の建設コンサルタントに所属して、これまでの経験を活かすべく、業務に携わりながら若手技術者の育成に努めています。

プライベートでは、出身地村上の戦国武将「本庄繁長公」の魅力に引かれ、興味が湧いたことから、賛同者とともに顕彰会を立ち上げ、地域を盛り上げる活動を行っています。その立ち上げには青年技術士交流会での経験を活かすことができました。地域おこしの活動は一般的には地元で寄付金をかき集め、その額に応じて、さて何をしようか…、というパターンが多いのですが、私たちの会では、立ち上げ段階で「自分たちはどんな活動をしたいのか」を徹底的に話し合いました。その結果、それを実現するためには会費だけで十分…ということになり、寄付金に一切頼らない手作りの活動が評価されています。HP により発信したことから、会員も全国に広がり 80 名ほどになりました。書籍も 2 冊発行し、販売しています。自然な流れで、活動のポイントを「学術的活動」と「交流」の 2 本柱としましたが、なるほどこれも基本的なパターンなのかと改めて感じました。

その他、「越後村上・春の庭百景めぐり」「にいがた庭園街道」などの地域活性化活動に加わっています。青年委員会が企画して、平成 16（2004）年に街並み見学会を行った村上も、その後、平成 28（2016）年に「歴史的風致維持管理向上計画」がそれぞれの主務大臣から認定を受け、予算がつけられ、さらに趣のある街並みに変わりつつあり、楽しみです。

ちなみに、平成 19（2007）年の福井での全国大会の時、青年企画の交流会で披露させてもらいましたドラムス演奏も、気の合う仲間とグループを結成して楽しく続けさせてもらってます。

②　青年技術士交流委員会 20 周年について、率直な思いをお聞かせください。

平成 18（2006）年に中部青年技術士会の 20 周年記念に出席した際、記念誌の原稿には「私たちの会は、まだ創立 7 年目ですから、人間の年齢に例えると、成人と小学 1 年生くらいの関係に匹敵します…」など投稿させてもらったことを思い出しました。当時、式典のステージに歴代委員長が並んだ光景を羨ましく思ったものでした。それから時は流れて、私たちの会も力強く歴史を刻み、北陸でも晴れて 20 周年を迎えることができたことは感慨深い想いです。

「技術士」を取得した若手技術者は日本の科学技術の未来を託されていると言っても過言ではないでしょう。それゆえに、責任を背負った立場として、自分はどのような目標を掲げ、どのように自らを鼓舞していくべきかという、悩みも多いと思われます。そんな状況下において、同年代の技術者達が集う青年技術士交流会は意義深いものでありますから、北陸本部の役員の方々はじめ多くの技術者に支えられながら、20 年もの間継続してきたことは喜ばしい限りです。その一時期ではありますが、私自身もそのまとめ役を務めることができましたことを光栄に思っています。

③　青年委員会の思い出をお聞かせください。

青年技術士交流員会は青年技術士懇談会として平成 11（1999）年に発足しました。その目的には、地域の科学技術に関する実践的な知識集団の一員として、日々進展する科学技術を、青年技術士という立場から各分野での業務等を通じて社会に具現化することで、「持続的な地域の発展と人々の幸福に貢献する」ことを掲げていました。当時は北陸支部の「教育・広報委員会」と「事業委員会」の実行組織として活動することも目標の１つでした。月１回程度委員会を開き、活発な議論を重ね、年２回支部行事を企画することが慣例となっていました。

委員会に始めて参加させてもらった時、委員 1 人 1 人がそれぞれしっかりとした考えを持ち、役割を決める時も積極的に立候補する姿が印象的でした。それが、最も身近な同世代の技術士との出逢いでしたが、他の会合ではあまり見られない光景でしたので、技術士の意識の高さを改めて感じたことを覚えています。私は 2 代目委員長としてその流れを引き継いだのですが、委員会が軌道に乗り活性化したことについては、発足時から 5 年間委員長を務められた土橋佳代さんの功績が大きいと思います。その労をねぎらって、平成 17（2005）年 2 月に委員会から感謝状を贈りました。

その流れの一環として、前委員長が築き上げた北陸の各県担当委員との交流を引き継いで、発展させることができたのが、印象深い思い出です。福井での全国大会を翌年に控えた平成 18（2006）年 6 月に、大会での青年分科会の企画に向けて士気を高めたいという考えで、それまで新潟市のみで行っていた委員会を金沢市で行いました。それまでメールでは意見交換していましたが、初めて出逢う人も多く、ドキドキしたことを覚えています。各県の人たちは想像していたとおり、意識の高い人たちばかりで、みんなすぐにうち解けました。振り返れば、全国大会に向けて、この首脳会談が最初の大きなステップとなりました。

単なる会議・交流会だけでなく、金沢市東山茶屋街や七尾市の御祓川浄化への地域ぐるみの取り組みなどについての見学も併せて行ったことで、参加者の資質向上にも役立ちました。きめ細かく準備して頂いた安江雪菜さん（当時石川県委員）や森山奈美さんのご苦労には頭が下がる想いでした。

また、平成 19（2007）年 6 月には、全国大会へ向けてのプレイベント的な要素も含め、同様の企画を福井市で行いました。自分たちで企画するという意味で、福井県の青年技術士のメンバーにとっても連帯感が高まったと思われます。三国港突堤、東尋坊自然の森整備事業、三国湊町街なみ保存の取り組みなどについての見学も併せて行い、福井の自然、風土、技術者の足跡に触れることができました。

その後、全国大会の青年企画行事（“青年技術士の集い”と銘うちました）に向け、福井市で準備会議を繰り返し行い、大会では「青年の未来～社会とともに成長する技術者をめざして～」をテーマに 3 人の講師による講演会を行いました。他の分科会と競合することがないよう全国大会のメインの日程の前日に行ったこともあり、100 名もの参加者があり好評でした。ウェルカムパーティ後の青年企画の交流会についても、手作りのもてなしとしてバンド演奏を行うこととなりました。大会で講師をお願いした福井県の鳥居直也さ

ん、そして私も参加して、急ごしらえのバンドが結成され、当日、吉田拓郎やアリスの曲を演奏し、他支部の人たちから「芸達者な北陸の青年たち」という評価を頂きました。川端恭一さん（当時福井県委員）、池田保裕さん、夛田照代さんを中心に福井県の青年技術士のみなさんがひたむきに取り組んだ姿が印象的でした。メンバーにとっては大イベントを乗り越えたということで、さらに連帯意識が高まり、翌年の6月には、富山県で3回目の県内青年技術者の交流会が行われ、竹内勝信さん（当時富山県委員）や梶川明美さんが中心となりに富山市のライトレール、岩瀬街並み、北前船回船問屋などの見学会を企画して頂きました。

次に、年2回程度、青年技術士交流会が企画して行った支部内行事についてです。行事内容は、主に現地見学会、講演会、パネルディスカッションなどでしたが、様々な部門の会員に共通のテーマを選定することが重要で、企画段階では議論が伯仲しました。具体的な取り組みとしては、様々な分野において関わりが深く、重要な視点の一つである「環境問題」を取りあげ、どう取り組んでいくべきかについて、勉強会等を通じて掘り下げました。また、平成15（2003）年度からは環境問題を包含する「暮らし」をテーマに地域に密着した企画を行いました。現地見学会では、商店街・下町・農村の活性化事例、食品加工工場、リサイクル施設、火力・原子力発電所、城の復元など多岐にわたりました。青年の持ち味を生かしたものは何かという話になり、「近未来への夢」というテーマを設定した際、他支部の航空宇宙部門の技術士に講演をお願いしたこともありました。

テーマの選定にはあれこれ悩んだのですが、様々な部門に共通の話題ということは、突き詰めれば、科学技術全体に関わる究極の話題ということになると感じました。また、テーマについてディスカッションしたり、行事を企画したり、準備する過程で委員会内部の結束が固くなっていったように思えます。

また、企画行事については、中山輝也支部長、大谷事務局長、佐藤直衛教育広報委員長、小林武夫事業委員長（以上、役職名は当時）に親身に相談にのってもらいました。そんな支えがあってこその活動であり、企画行事も充実したものになったのだと感じています。また、加藤皓一さんのように青年が企画する現地見学会に毎回参加して頂き、応援してもらったり、感想を頂いたりしたことも、力強い後押しとなりました。想い出に残っているのは、村上市・城下町の町屋めぐり（地域活性化のとりくみ）を企画した時、ご自分の郷里ということもあり参加頂いた故・百武松児さんです。当時、足がややご不自由であったにも拘わらず、とても熱心に見学地を巡られ、喜んでもらったことを覚えています。

④　他の地域本部との交流について、当時の思い出、印象をお聞かせください。

各支部（現地域本部）の青年技術士委員長が、全国の青年技術士交流実行委員会の委員を兼ねることとなっており、青年技術士の輪を全国的に広げるシステムとなっていました。平成16（2004）年に東京で行われた実行委員会に初めて参加させてもらった時は、とても緊張しましたが、会議を進めながら、各支部とも共通の問題を抱えていることが分かり、すぐに連帯感が生まれたことを覚えています。

全国的な交流の1つの契機となったのが、平成16（2004）年に札幌市で行われた全国大会でした。この大会で、盛大かつ手の込んだ青年技術士の分科会が企画され、各支部の活動報告や各支部委員長によるパネルディスカッションが行われました。このとき「8人衆」と呼ばれた代表メンバーが、その後、平成17（2005）年の福岡、平成18（2006）年の東京、での全国大会において、青年技術士による分科会を大いに盛り上げ、平成18（2006）年の中部支部青年技術士会創立20周年の際には、その壮絶なチームワークが結実し、発揮されたことも楽しい思い出です。その後、それぞれのメンバーは着実に後輩を育て代表の座を譲り

ましたが、全国の青年技術士の交流がステップアップした時代を、野村貢実行委員長（当時）を始めとするこの世代の人たちが築いたのだと、今、思い返しています。

次に、海を越えた技術士交流「日韓技術士会議」についてお話させて頂きます。この会議は約 50 年もの長い歴史を持ちますが、聞き及ぶところによりますと、日本人の同じ師を持つ、日本人技術者と韓国人技術者同士の交流からこの会議が始まったとのことです。その会議において、平成 17（2005）年頃から、青年技術士の分科会が企画され、その準備もあり両国の青年の交流が盛んになりました。その分科会はそれぞれの国の技術士が自分の専門に基づき、英語で発表するものでしたが、英会話に堪能な技術者が多くて驚かされました。その中で親善サッカーについても、大会に先立つプレイベントとして青年により企画されました。2 年目からは別な競技という意見も出ましたが、サッカーファンの多い韓国側からの強い希望もあり、その後、沖縄、ソウル、新潟、仁川とサッカー大会が恒例となりました。その成績は当時、韓国側の３勝、２引き分けという惨憺たるものでしたが、この企画により会議への若い技術者の関心が高まったことは大きな収穫でした。

その後、平成 20 年にはこの日韓技術士会議が新潟で開催され、北陸支部を挙げて精力的に準備が進められました。青年技術士委員会でも、三代目委員長の斉藤真晴さんを中心に会議全体を盛り上げる活動に参加しつつ、陸上競技場でのサッカー大会、青年の分科会の準備を進め、大成功を納めました。また、これを契機に、交流実行委員会でも全国レベルで定期的にサッカーの練習を企画するようになりました。韓国技術者は同じ民族としての兄弟感を感じつつ、スポーツでも技術でも良き友であり、良きライバルでもあると感じられたことはかけがいのない思い出です。日韓の青年技術士の交流が盛んになった背景には、熱心で誠意溢れる活動をされた当時の韓国技術士会青年委員長朴永煥さんの功績が大きかったと感じています。

⑤　技術士を取得して良かったことをお聞かせください。

技術士が遠いあこがれだった頃、もし、その夢が叶ったなら、きっと多くの出逢いが待っているだろうと、期待に胸を振るわせていました。そして、それが現実となり、さらに青年技術士委員会の一員となったことにより、実に多くの地を訪れ、多くのことを体験し、多くの人と語らうことができました。その出逢いにより、多くのことを学ばせてもらったと思っています。

技術士は不思議な資格だと思います。一番変わるのは自分自身なのかも知れません。もちろん、周りの人たちの支えがあったり、新しい出逢いがあったりすることにも起因していますが、取得した瞬間から、視界が広がり、次の頂（いただき）を目差し新たな歩みを進めたいという気力を呼び起こさせてくれるのです。それは、きっと周りの技術士の人たちが力強く歩みを進めていることによる刺激もあるのだと思っています。だからこそ、出逢いの大切さを改めて感じています。

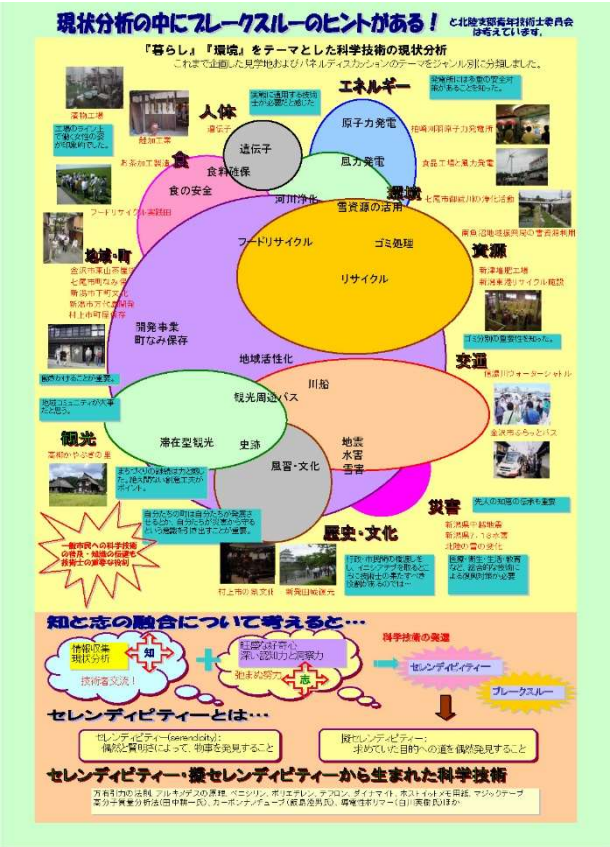
⑥　技術士資格の普及・活用を念頭に、技術士の果たすべき役割、また今後の青年技術士交流委員会に期待することを教えてください。

誰もが予想すらしなかったコロナの猛威は、大きな禍であることに間違いありません。この度の 20 周年記念行事を例にとっても、企画を大きく見直さざるを得なかったことは、準備を進められてきた委員の方々にとって、悔しい想いが募っていることであろうとお察しいたします。ただし、人類にとっても、我が国の科学技術の発展の一翼を担う私たちにとっても、これは一つの警鐘、あるいは試練として前向きに受け止めるべきかと思っています。

生物が、気候や環境の変化に応じて進化して生き延びてきたように、私たちの考え方もこの機に進化させなければならないのでしょう。いわゆる、「できないことを嘆くのではなく、できることを捜して実践していく」という発想が求められます。そのためには、科学技術者（医学関係者を含む）がイニシアチブをとっていく必要があります。たとえば、ある意味、経済と感染対策のようなトレードオフの関係をいかに俯瞰的に、科学的に分析できるかなどは、リスク管理のうえで技術士としても大きなテーマと考えられます。

青年が果たすべき役割は、理想の未来像を描き、それに向けて歩みを進めていくことかと思います。まずは、コロナ禍における現状の分析が必要ですが、それにより、これまで急速に発展してきた社会の問題点や改善点がリストアップできるかも知れません。場合によっては、そういった話題を投げかけ、糸口を作るだけでも有意義なこととも言えます。必要以上に便利さ、速さ、コストなどを追及し過ぎた社会になっていなかったか、輸入に頼りすぎていなかったか、ＩＴ技術はなぜ遅れをとっているか、疫病への備えはどうあるべきだったかなど…。どんな話題でもいいですが、いずれにせよ原点に立ち返る議論が必要なのではないかと感じています。疫病対策の歴史を探るのも良いかも知れません。こんな情勢だからこそ、社会が必要とするタイムリーな話題もあるかと思います。それを、ぜひ率先して探ってみて欲しいと思っています。

コロナが終息した時に、社会全体のしくみもシフトしていくと思いますし、そうでなければならないと思っています。青年技術士交流委員会も、これまでどおりの普及活動や企画行事ができるようになるには時間がかかるかも知れません。今は、大胆にリモート配信などを多用していくのも一案かと思われます。是非ディスカッションしてみてください。青年ならではのユニークな発想を楽しみにしつつ、心から応援しています。



（左：東京大会展示パネル、　右：北陸支部紀行）

-3 代目-

斎藤　真晴

Masaharu Saito

就任期間 H20～H21

①　青年委員会ご卒業後の現況、ご活躍をお聞かせください。

青年委員会在籍中、会社では受注拡大を目指す営業部の配属でしたが、その後、社内の技術力向上を目指す企画部、受注領域の拡大を目指して関東支店開設に携わり、現在（R3.4 月）は総務担当として日夜、社員みんなが安心して働ける環境づくりのために、全力で立ち向かっているところです。

②　青年技術士交流委員会 20 周年について、率直な思いをお聞かせください。

20 周年誠におめでとうございます。早いものですね。いつまでも気持ちは青年のままでいたいものです。

③　青年委員会の思い出をお聞かせください。

青年委員の当時は仕事も忙しく、週末の青年技術士会関連のイベント企画・参加や日韓技術士会関連の段取等は大きな負担に感じたこともありましたが、いい仲間との出会いがあり今となっては楽しかった思い出になっています。

また、技術士会で知り合った仲間たちが来県した際は、何よりも優先してメンバーを集め懇親を深めました。その影響で最終の新幹線に間に合わず急遽ホテルをとって、さらに朝まで飲み明かすといたことも度々ありました。

④　他の地域本部との交流について、当時の思い出、印象をお聞かせください。

今も変わらないかも知れませんが、当時の他支部（地域本部）との交流はお酒とカラオケ、さらに音楽演奏が欠かせませんでした。カラオケは受け狙いの選曲のほか、歌って踊るのは当たり前、洋楽のハードロックをシャウトするまでに至りました。当時は各支部の委員がカラオケで競い合っていたように思います。技術士にカラオケ部門があったらおそらくみなさん合格すると思います。

また、第２代委員長の堀田亨さん（ドラム担当の自称ハリーホッター）が音頭を取り全国大会では各支部の楽器ができるメンバーを集めバンドを組み、誰もが楽しめる演奏で最高に盛り上がったのは印象に残っています。

⑤　技術士を取得して良かったことをお聞かせください。

良かったことはいくつもありますが、いつでも集まれる異業種の多くの仲間ができたことと、自分の専門分野以外（航空・宇宙、原子力・放射線、生物工学等）のめったに聞けない話を聞く機会もあり視野も広がったことが一番良かったことでしょうか。

⑥　技術士資格の普及・活用を念頭に、技術士の果たすべき役割、また今後の青年技術士交流委員会に期待することを教えてください。

技術士の果たすべき役割は、常に技術研鑽したうえでの確かな技術力による社会貢献だと思います。また、ありきたりですが異業種も含めた若い技術士の交流・連携の継続が科学技術の進展の基礎となる時代になっています。そういった意味で、今後の青年技術士交流委員会に期待することは、大変かも知れませんがこれまでの活動を継続・発展させ、異業種（技術士の他部門の方々）との輪をさらに広げていただきたいと思います。青年技術士交流委員会のさらなるご活躍を期待しております。

-4 代目-

大塚　直吉

Naokichi Otsuka

就任期間 H21～H22

①　青年委員会ご卒業後の現況、ご活躍をお聞かせください。

その後、北陸本部の幹事、防災委員会の委員として数年間活動しました。また、北陸本部のサッカー交流では月に 2～3 回の練習で楽しく過ごしました。

2012 年度からは県外勤務となり、技術士会での活動は少なくなりました。2012 年度は岩手県宮古市で東日本大震災の復興工事、2013 年度から 2 年間は九州・沖縄地区を業務エリアとする九州支店（福岡市）の土木部長、2015 年度から現在までは中国地方 5 県を業務エリアとする中国支店（広島市）の支店長をしています。

②　青年技術士交流委員会 20 周年について、率直な思いをお聞かせください。

時が過ぎるのは早いと思います。青年技術士交流委員会を支えている皆様に敬意を表します。

③　青年委員会の思い出をお聞かせください。

交通、産業、観光等のプランニングと事業化支援が専門の安江雪菜さんを中心として企画された拡大青年技術士委員会議は、見学会（金沢城から長町周辺）、交流会議（石川県政記念しいのき迎賓館）ともにすばらしく印象に残っています。

④　他の地域本部との交流について、当時の思い出、印象をお聞かせください。

技術士全国大会の青年行事は、仙台と三重・四日市に参加しました。皆さん明るく前向きでキラリと光る個性を持っておられるなと感じました。

日韓技術士会議のプレイベントである親善サッカー大会は、2008 年の新潟開催は 1：1、2009 年の韓国（仁川）は 0：1 の惜敗、2010 年に 1：0 で韓国チームにやっと初勝利しました。下関市内の居酒屋で全国から集った仲間と祝杯を挙げたことは良い思い出です。

⑤　技術士を取得して良かったことをお聞かせください。

技術士を取得して会員となり、土橋佳代初代会長のお声掛けにより青年技術士懇談会の活動に参加したのが始まりです。様々な業種の方が集っての活動は楽しく「よく学びよく遊べ」を実践できたと思います。また、青年活動を通じて全国に仲間ができました。

総合建設業の本間組に勤務しており業務上のメリットがあります。技術士（建設部門）、１級土木施工管理技士、及び 1 級建築施工管理技士を有し、建設工事の 29 業種のうち 24 業種での技術者登録が可能です。

⑥　技術士資格の普及・活用を念頭に、技術士の果たすべき役割、また今後の青年技術士交流委員会に期待することを教えてください。

日本技術士会「技術士プロフェッション宣言」を念頭に行動することが肝要であると思います。青年技術士交流委員会の皆様はコロナ禍で大変ご苦労されていると思いますが、引き続き「会員メリット」となる講演会等の企画を期待します。

-5 代目-

坂東　和郎

Kazurou Bando

就任期間 H23～H26

【ご本人コメント】

写真は技術士合格の時です（2001 年 3 月）。ちょうど 20 年前ですね。この頃、バングラデシュの地下水ヒ素汚染による健康被害の解決に一生懸命になっていました。経験論文はその調査成果でまとめました。

①　青年委員会ご卒業後の現況、ご活躍をお聞かせください。

青年委員長を卒業した平成 26 年度以降は、事業副委員長という役目を頂きましたが特別な活動をすることもなく、技術士試験の監督や講演会などの司会をするのが主な活動となっていました。令和元年（たぶん）からは、村田佳久さんの後任として事業委員長、併せて試験副委員長となり、そして、令和 3 年度からは丸山正記さんの後任として幹事にも就任させて頂きました。令和 3 年度の役員改選で、大谷政敬本部長をはじめ、多くの大先輩方が第一線からご勇退されてしまいましたし、佐藤秋子さんからはいつも期待の声を頂いています。自身も随分と楽していたなとも思っていますので、そろそろ再始動しようかなと考えているところです。現在、新潟県庁技術士会の長尾聡さんとも連絡をとり、雪をテーマに何かしましょうと話をしているところです。皆さん、またご協力ください。

②　青年技術士交流委員会 20 周年について、率直な思いをお聞かせください。

20 年ですか。どんどん代替わりしていて素晴らしいと思います。青年のアイディアでどんどん進み、事業委員会の遥か先を行って下さい。

③　青年委員会の思い出をお聞かせください。

すべてが楽しい思い出です。その時に出会った、北陸と全国の技術士、ずっとお付き合いしていきたいですね。私の委員長時代の委員の皆さん、オブザーバーの皆さん、ありがとうございました。特に副委員長だった小見直樹さん、いつも相談に乗ってくれてありがとう。今後もよろしく。

④　他の地域本部との交流について、当時の思い出、印象をお聞かせください。

統括本部の会議や全国大会の青年交流イベントに、北陸代表 1 名で行っていたこと。いまでは考えられないですよね。きっと。九州の持田君が仲良くしてくれて助かりました。大塚直吉さんから青年委員長を引き継いだとき 45 歳で、全国の青年定年に達していました。、大谷本部長からは北陸は 50 歳と言われましたが、全国会議に行くと大先輩扱いされて、なんか恥ずかしかったです。

青年委員長は全国で７人しかできません。日本中の若い技術士の代表という自負がありました。みなさんに経験して欲しいポジションですね。

⑤　技術士を取得して良かったことをお聞かせください。

仕事の面では、若くても顧客から信頼して貰えるようになった（気がした）こと。
技術士会で、全国大会や見学会、懇親会で楽しい時間を作れたこと。仲間が増えたこと。
会社では、技術士を目指す後輩社員が増えた（気がする）こと。

⑥　技術士資格の普及・活用を念頭に、技術士の果たすべき役割、また今後の青年技術士交流委員会に期待することを教えてください。

技術士の果たす役割は、科学を正しく理解し社会の発展、市民の幸福に役立てることでしょうか。市民の幸福を考えない科学の利用は不幸を招きます。社会の発展と市民の幸福の両立こそが技術士の使命だと考えています。「真の文明は、山を荒らさず、川を荒らさず、村を破らず、人を殺さざるべし」（田中正造）

事業委員会も同じですが、科学技術だけでなく、社会科学的な視点を含めた活動が求められているのではないでしょうか。

-6 代目-

大高　章

Akira Otaka

就任期間 H27～H29

【ご本人コメント】
青年らしい爽やかさが不足気味なので、レモンを足してみました（2015）。

①　青年委員会ご卒業後の現況、ご活躍をお聞かせください。

北陸本部では、教育広報委員会（2011 年～）で会報誌「ほくりくの技術士」の編集に携わっています。また、2020 年６月よりホームページ小委員会で北陸本部ホームページのリニューアル作業を進めています。2021 年７月新規ホームページ運用開始予定です。

統括本部の技術士活性化委員会（2017 年～）のメンバーとして、会員のための研修会の企画・運営などを行っています。

②　青年技術士交流委員会 20 周年について、率直な思いをお聞かせください。

青年委員会との関わりは、2003（H15）年に技術士二次試験に合格し、その年の有資格者懇談会でお誘いを受けたのがきっかけです。初代委員長の土橋さんの時でした。運営委員会なるものにチョコチョコ顔を出していましたが、実際に委員として登録されたのは 2009（H21）年度の大塚さん（4 代目）の時です。

2015～2016（H27～28）年に 6 代目委員長を勤めさせて頂き、その後 2018（H30）年まで在籍しました。

委員長時代に「中部青年技術士会 30 周年記念例会」に参加させて頂き、「北陸青年は何周年？」から始まり、調べてみると 1998 年 12 月に青年技術士懇談会が発足しており、「ちょうど 20 周年じゃん！」ということで、在籍中の開催を目指していましたが、結果的に現委員長の高野さんにご苦労頂くこととなり、ちょっと申し訳ない気分です。

しかし、これを機会にこれからの青年技術士交流委員会を盛り上げてくれる人材が現れることを期待しています。

③　青年委員会の思い出をお聞かせください。

青年委員長だった 2016 年に北陸・富山で全国大会が行われました。青年の部は「10.3　TYM」と銘打って「いきたい、すみたい、はたらきたいまち、富山」をテーマに地方都市を元気づけるキャッチコピーの作成・プレゼンを行いました。テクノツーリズム、青年の集い、大懇親会を 1 日に集約したハードスケジュールで、とても大変な思いをしましたが、前委員長の坂東さんを筆頭に北陸のみなさんの熱い協力により何とか終えることができました。本当に感謝しております。

また、個人的な思いとして「敷居の低い青年委員会」を目指し、酒蔵の見学や、新しいお米ブランド「新之助」をテーマにイベントを行いました（自分が興味があっただけです）。

余談ですが「nHo」のロゴも一部で熱狂的な支持があったものと思いたいです。

10.3
TYM

nHo
new hokuriku Order

④　他の地域本部との交流について、当時の思い出、印象をお聞かせください。

私が委員長だったタイミングでは、全国大会と統括本部拡大委員会のほかにも全国規模のイベントとして、「中部青年技術士会 30 周年記念例会」と「2016 年東北ミニ全国大会」が行われました。

「2016 年東北ミニ全国大会」は、前年の富山・全国大会の際に行った「全国青年技術士交流会議（統括本部の仕切り）」で行われた「ミニ全国大会招致プレゼン」で勝ち抜き、実現したものです。2011 年の東日本大震災から 5 年が経過し、復興していく東北の姿を見学できたことは印象深いです。

全国の青年技術士は、猛者と呼べる「すごいヤツ」がたくさんいます。青年イベントに参加することで北陸の青年技術士のみなさんもその熱を感じ、ギアを 1 段上げていくような、そんな交流を行って欲しいと思います。

⑤　技術士を取得して良かったことをお聞かせください。

青年技術士交流委員会に参加できたこと。

青年技術士交流委員会を通して、北陸の青年技術士のみなさん、全国の青年技術士のみなさんと交流し、成長できたかな、と思います。

今も経験豊かなベテラン技術士のみなさんから、色々と学んでおります。

⑥　技術士資格の普及・活用を念頭に、技術士の果たすべき役割、また今後の青年技術士交流委員会に期待することを教えてください。

技術士は「科学技術に関する高度な知識、応用能力および高い技術者倫理を備えていると認められた技術者の国家資格」なので、技術士一人ひとりがそのように心に念じて行動すれば、第三者に映る姿も違ってくるのでしょうか。

建設コンサルタントのように、仕事上、技術士の資格が不可欠な要件が増えれば、メリットが大きく、認知度も地位も向上すると思いますが、他の業界ではどうなのか？

青年技術士交流委員会は、技術士会への参加の動機であったり、入り口的な存在として、おもしろいイベントを計画して欲しいです。異業種の技術者と交流して、裾野の広い技術者になる、知的好奇心を刺激してくれる場であることを期待します。

-7 代目-

小酒　欽弥

Kinya Kozake

就任期間 H29～R1

【ご本人コメント】

青年旗、作りました。6 代目大高委員長がなぜか旗持ち。。。

①　青年委員会ご卒業後の現況、ご活躍をお聞かせください。

委員長卒業後は、少し時間が出来ると期待していましたが、そうもいかず。コロナ禍前は、全国あちこちに出張していましたが、今は主にリモートで下水熱・地中熱などの再エネ関係の企画・提案を行っています。

②　青年技術士交流委員会 20 周年について、率直な思いをお聞かせください。

20 年経てば赤ちゃんも成人する年数。青年技術士交流委員会も人が入れ替わりながらそれだけの年数活動してきたんだなと感じます

③　青年委員会の思い出をお聞かせください。

・楽しかったこと、ネタ、思い出

同じ穴のムジナ（変わり者集団）なので、楽しく飲んだ記憶しかありません。飲むと寝るパターンなので、都度隠し撮りされていたことが良い思い出です。

・大事にしたこと

企業の立場では見れないもの、聞けないことを意識した講演会や見学会の企画。

・やり残したこと

技術士の活動に関する働き方改革。建設部門以外の社会的地位が低いため、平日の活動に理解が得られないことが原因。技術士会として変えていかなくてはいけない案件。

④　他の地域本部との交流について、当時の思い出、印象をお聞かせください。

とにかく色が濃い！全国の青年技術士の熱さと活力を感じました。

⑤　技術士を取得して良かったことをお聞かせください。

青年活動で技術士会で全国に仲間が作れたこと。

仕事するうえで、話をちゃんと聞いてもらえるようになったこと。

⑥　技術士資格の普及・活用を念頭に、技術士の果たすべき役割、また今後の青年技術士交流委員会に期待することを教えてください。

青年は技術研鑽も大事ですが、異業種の技術士と交流できることが最大の魅力です。そこだけは、とにかく大事にしてほしいと思います。

技術士は、デジタル的にうまくいかない問題を解決できる能力に長けた技術者の集団と考えると、これからの社会にこそ必要な資格ではないかと思います。

-8 代目-

高野　康夫

Yasuo Takano

就任期間 R1～R3

① 青年委員会ご卒業後の現況、ご活躍をお聞かせください。

まだしばらく卒業はしないつもりです。45 才にはなってしまいましたが、これからも村山新委員長を支えながら青年委員会で楽しく過ごしたいです。徐々に、事業委員会、倫理委員会、教育広報委員会など、他の委員会活動に軸足を移していくことになる気がします。

② 青年技術士交流委員会 20 周年について、率直な思いをお聞かせください。

他のアンケート結果を見ればわかるように、ここだけの話、青年委員会って、癖のある先輩が多いじゃないですか。間違えた、エネルギッシュな先輩が多いじゃないですか。20 年間エネルギーが凝縮し続けた結果、そろそろ爆発するんじゃないかと心配。

③ 青年委員会の思い出をお聞かせください。

LINE の運用や、YouTube への動画投稿などに挑戦したのは良い思い出。やり残したなあ、と思うのは「ビブリオバトル」ですね。いつか開催できるといいなぁ。SNS の活用はこれからも問題なく続くと思うけど、YouTube への投稿は、なかなか継続が大変そう。継続するためには、20～30 代のエネルギーと感性を注入したいですね。20～30 代に入会してもらうには、どうしたらいいだろうか。

④ 他の地域本部との交流について、当時の思い出、印象をお聞かせください。

全国大会の青年イベントとか、統括主催の拡大運営委員会は毎回とっても印象深いですよね。でも実は交流の機会はそれ以外にも色々あって、、たとえば委員長専用メッセージスペースなんかもあるんです。そこでは、技術士会活動に関わりなく、みなさん気ままに好きなことを会話しています。そうするとどうも、どこに行っても、青年技術士の悩みはみんな似たり寄ったりなんですよね。だからでしょうか。北陸だけじゃなく、他地域本部のセミナーに参加してみても、やっぱりおもしろい。みんなもっと、他地域本部のイベントに参加するべき。

⑤ 技術士を取得して良かったことをお聞かせください。

やっぱり、青年の活動を通じて同年代の「技術士なかま」と出会えたことが大きい。他の技術部門のエンジニアとの意見交換はとても刺激的だし。これからも末永くお付き合いをお願い致します。

⑥ 技術士資格の普及・活用を念頭に、技術士の果たすべき役割、また今後の青年技術士交流委員会に期待することを教えてください。

現状ではとりあえず、リモートの流れに乗って県境を跨いだ交流の活性化を進めるのが先決かな。いつやるの？今でしょ。長期的には、技術士会全体に若いガソリンを注入し続けること、次世代の技術士を育てることが期待されているよね。わからんけど。

個人的には、文化・史跡見学や技術経験談だけでなく、実用セミナーなんかをもっと開催できたらいいかな、と思います。技術士会の活動が、「目に見えて」仕事に役立つことも必要ですから。まあ、あんまり重すぎても続かないから、時々ね。

記事の執筆にご協力いただいた歴代委員長の皆様に、重ねて御礼申し上げます。

北陸青年の未来に向けて

９代目　青年技術士交流委員長　村山 達也

§はじめに

・・・・「日本技術士会」って？

念願だった技術士第二次試験を合格した年、有資格者懇談会の案内に目を通して最初に浮かんだことは、そんな言葉でした。

皆さまもご存知の通り「技術士」という資格は、技術者にとって最も権威のある最高位の国家資格と言われています。そんな技術者の最終目標とも言える存在であるにも関わらず、その知名度は高いとは言えないのが「技術士」ではないかと思います。このような背景もあってか、「日本技術士会」が何をしている組織なのか、技術士を目指している方であってもしっかりと記憶されてはいないように思われます。

青年技術士交流委員会での活動や交流は、技術士という成長過程における最初の時期にあたります。青年技術士が活性化することは、そのまま技術士全体の活性化として引き継がれていくでしょう。素晴らしい風土と歴史に抱かれながら技術を磨いてきた北陸の青年技術士によって「技術士」そして「日本技術士会」を盛り立てていけるよう、全力で取り組む所存です。北陸青年の未来に向けて、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

§技術士補および修習技術者に向けた活動の拡充

青年技術士交流委員会は技術士活動としての最初の一歩になることが多いかと思いますが、その一歩をより踏み出しやすいものにする取り組みが大切です。其の為には、技術士（二次試験合格者）だけでなく「技術士補」や「修習技術者」といった一次試験合格者にも目を向ける必要があるのではないでしょうか。

「技術士補」や「修習技術者」は技術士に比べてより若い方が多いので、北陸青年の活動は馴染みやすいと思います。積極的に参加を呼びかけていく中で、技術士を目指す励みなるような活動を行いたいと考えています。

§女性技術士が活躍する組織づくり

現在の北陸青年メンバーには4名の女性が在籍しております。会における他の名簿を拝見すると、まだまだ男性の名前が多く並ぶのが現状ですが、若手である青年技術士交流委員会は女性の割合が多いように感じます。初代青年委員長が女性であった北陸の青年、その流れを引き継いだ歴代委員長の想いと努力が窺えます。

また、青年技術士交流委員の下部組織に「若手マンパワーアップ小委員会」がありますが、こちらは新潟県の建設関連産業に特化してはいるものの、若手・女性の活躍を推進するべく活動しております。詳しくはホームページ等で活動を詳細に確認することができますので、ぜひご覧になってみて下さい。

このように青年技術士交流委員会は女性が活躍している、そして活躍しやすいフィールドと言えます。リモート会議やSNSが普及したことにより、自宅に身を置きながらの参加が叶うようになったことは大変嬉しく思っており、女性技術士の参加を後押しする要因になり得るのではないでしょうか。今後も積極的に活用していきたいと思います。

§北陸の発展と社会貢献活動

青年技術士交流委員会の活動目標に「持続的な地域の発展と人々の幸福に貢献する」とありますが、北陸4県の技術士は「地域の活力、底力」をメインテーマに据えて活動して参りました。この伝統ある方向性を受け継ぎ、北陸地域の発展に寄与していきたいと考えております。

コロナ禍の影響もあり実施を見送っていた、市民に対する「理科教室」など燻っている案もありますので、具体的な社会貢献活動が行えるよう、他の地域本部における取り組みを参考にしながら、「日本技術士会、聞いたことあるよ」と言われるよう活動してまいります。

北陸の魅力ある技術を発信し続けることは北陸青年の役目であると捉え、全国との青年交流や地域における社会貢献活動を通して積極的な発信を行いたいと思っています。

§終わりに

読み返してみると思いの外硬い内容になりました。締めに何を書こうか悩んだ挙句、簡単ではありますが自己紹介をすることにします。

私は 1984 年生まれ、現在 37 歳です。大学を卒業した後、地元新潟県の地質調査・地盤改良工事を専門とする会社に就職、技術職として業務に従事した後、その経験を基に技術士を取得しました。専門は建設部門の土質及び基礎。現在は経営企画室にて、会社の広報や人事、財務などを担当しながら、新規事業の確立としてグループ会社の企画、設立、運営、及び管理サポートを行っており、本当に技術士なのか不安になることも多々御座います。

最近の趣味はオートバイで、去年 20 年ぶりにリターンライダーとして復活を遂げました。ついこの間、大型自動二輪免許を取得しましたので、次に乗る場合はいわゆるリッターバイクと呼ばれる大排気量の車両に乗れたらと思っています。バイク乗り技術士がいらっしゃれば、ぜひ声をかけて下さい。技術も運転も安全第一でいきましょう。

しかしまぁ、本当に硬い事を書いてしまいましたが、本音を言えばとにかく楽しんでもらって、その中で技術士になってよかった･･･と皆がジーンくる活動ができたらそれが一番だと思っています。そのような活動であれば、知らず知らずのうちに社会貢献だったり地域の魅力発信だったりが自然と実現しているような気がします。皆様、そう思いませんか？

青年技術士の「ON」と「OFF」

＜編集後記＞

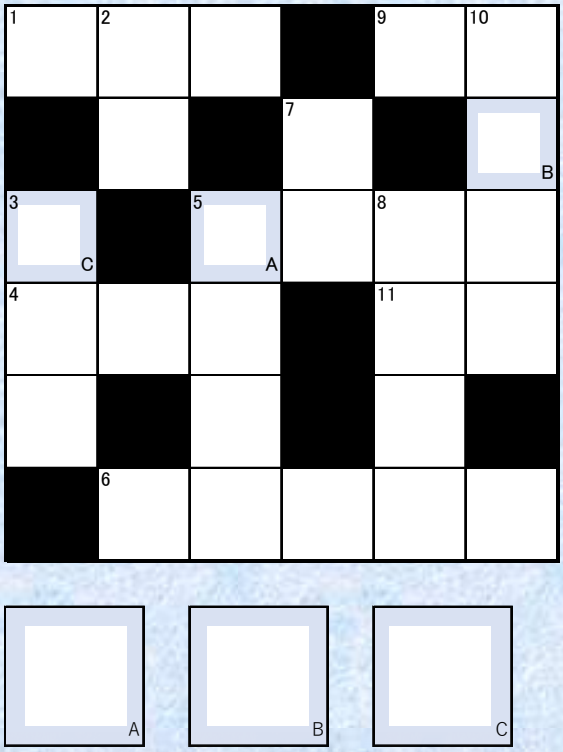
伝えたいことは３つ。

高野さん、委員長お疲れ様でした。20 周年の形、何とか残せた！
村山さん、後は任せた！！
そして、みなさん、ご協力ありがとうございました。
技術士会は知識と情報、機会(経験)とネタの宝庫。
この楽しさ、みなさんもぜひご堪能あれ！！！　　下鳥

編集にご協力頂いたみなさま、そして下鳥編集長ありがとうございました。
編集を通して先輩方の情熱や苦労、そして青年活動が財産になっていることを感じました。(特に歴代委員長の皆様！)
継続研鑽、社会貢献、青年活動の参加者メリットの追求など。
形として残していければな、と思います。
はやく正会員になりたいものです。　　飯澤

下鳥編集長、飯澤さん、大変な編集作業、おつかれさまでした！
調べ始めるとわかるけど、20 年にわたる青年の活動は、とてもエネルギッシュで多岐にわたっていました。編集にあたっては途中で襲い掛かってきたコロナ禍も結構なハードルだった。ただでさえ多忙を極めるのに、さらに対外活動が制限される中、このようにまとめ上げるのは本当に大変な作業だっただろうと思います。諸先輩方のアドバイスとお二人の力でなんとか仕上げることができて、本当に良かった。
この汗と涙の記録は、きっと次世代の青年技術士の力になる。
高野

<クロスワードパズル>



●ヨコのカギ

1 初代北陸青年委員会委員長。
4 新潟、富山、石川、〇〇〇？？
5 北陸本部。技術士〇〇〇〇ビル
6 新潟米の新品種。みんなで食べました。
9 富山の名産。〇〇の鮨。
11 摂氏９９．９７４℃。〇〇点。1気圧。

●タテのカギ

2 大人数の移動に使用。
3 アニバーサリー〇〇〇。贈り物。
5 俺たち〇〇〇〇技術士交流委員会
7 人との出会い。まさに〇〇メイ。
8 技術士のみなさん、〇〇〇〇です。
10 皆で食べたい。金沢〇〇〇〇。